

米子水鳥公園

レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

☎米子水鳥公園 (☎24-6139)



珍鳥情報の取り扱いにはマ用心!

2020年3月20日に、ソリハシセイタカシギという珍しい鳥が現れました。このことを情報発信したところ、翌日から大勢のお客様が押し寄せました。

この鳥は国内に定期的に飛来する場所がなく、毎年日本のどこかに数羽飛来する程度の珍鳥です。米子水鳥公園では過去に1998年、2008年、2014年に飛来していて、今回で4度目となります。

今回注目を集めたのは、この鳥がネイチャーセンターの目前に3羽現れたことです。窓際から約20mの近距離で



ネイチャーセンター前に現れたソリハシセイタカシギ3羽

3羽も観察できることは大変珍しく、県内外から多くのお客様が集まりました。これまでも園内で珍しい鳥が現れると、広く情報発信をしてきましたが、こんなにも多人数が集まったことはなく、その反響の大きさに驚きました。



ソリハシセイタカシギを見に来ったお客様

このように、珍鳥の情報が広まると、県内外から大勢のカメラマンが押し寄せることがあります。水鳥公園は鳥を観察する施設ですが、園外の場合は地元の方の迷惑になる恐れがあります。そのため、米子水鳥公園では、園内外に現れた珍鳥の情報は公開しないようにしています。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

米子水鳥公園統括指導員 桐原 佳介

美術館通信

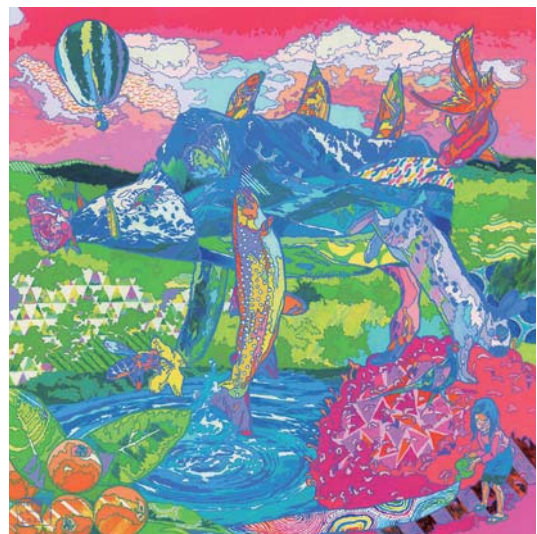
若手作家支援展 「朝倉弘平 雲わく庭から」より 干支ハンカチシリーズ「イノシシハンカチ」 原画《EAT EATEN》

会期 3月6日(日)まで【水曜日休館】

当館の若手作家支援展では初の1ターン作家である朝倉弘平(1983年生まれ)。2013年に東京から米子へ移住し、現在は大山町で制作に取り組んでいます。2018年には、家族で13か国を巡る世界旅行に出かけました。

本作は、旅行中のドイツで(朝倉も年男にあたる)2019年亥年の干支ハンカチの原画として描かれました。イノシシはいつも朝倉の自宅にやってきて畑の作物を食べ、庭を穴だらけにして去っていく。よく見るとこの画面のイノシシは「寄せ絵」で、ウサギ・蝶・竹の子など、自宅の庭に息づく動物や作物を組み合わせて描かれています。そんなイノシシは時にジビエとして人に食べられる…、朝倉はこうした「生命の循環」をテーマの一つにしています。

☎米子市美術館 (☎34-2424、FAX 33-0679)



《EAT EATEN》2018年 水彩、色鉛筆、紙